

# 東京放射線クリニックで治療可能な\*がん種 (部位)

東京放射線クリニックは、日本でも数少ない高精度放射線治療専門クリニックです。保険診療はもちろん、他院では治療困難とされるがんに対しても最大限の可能性を追求し、以下のがん種(部位)に対する放射線治療をご提供しております。

## 治療可能性が特に高い部位

**肺がん(肺転移)** 治療方法:SBRT ほか

ステージ(病期)別の治療可能性			
I	II	III	IV
○	△	△	△

早期の肺がんに対する放射線治療は、**手術と同等の効果を有し、肺機能を維持することが可能**です。身体への負担が少なく、入院も必要ないため、高齢や肺機能が低下して手術が困難な方、他の部位から肺に転移している方などへの放射線治療も行っています。

\*他病巣のない5cm3個までの肺がんは保険適用(SBRT)

転移しやすい部位

脳/リンパ節/肝臓/副腎/骨など

**乳がん** 治療方法:コータック治療 ほか

ステージ(病期)別の治療可能性			
I	II	III	IV
○	○	○	△

手術後の再発防止を目的とした放射線治療や、どうしても乳房の手術をしたくない方に対する**増感剤を併用したコータック治療**なども行っています。増感剤を併用することで放射線の感受性が高まるため、放射線治療だけでは困難な大きいがんに対しても放射線治療の効果を最大限に発揮させることが可能です。

\*コータック治療は保険適用外

転移しやすい部位

骨/肺/胸膜/肝臓/脳など

**膵臓がん** 治療方法:IMRT/SB-IMRT

ステージ(病期)別の治療可能性			
I	II	III	IV
△	○	○	△

局所の進行すい臓がんに対し、IMRTやSB-IMRTによる放射線治療を行っています。SB-IMRTは、SBRTとIMRTを組み合わせた治療法で、1回の放射線量を増やすことで治療期間を短縮することが可能です。

\*がんが限局している場合のIMRTは保険適用

転移しやすい部位

肝臓 など

**前立腺がん** 治療方法:IMRT

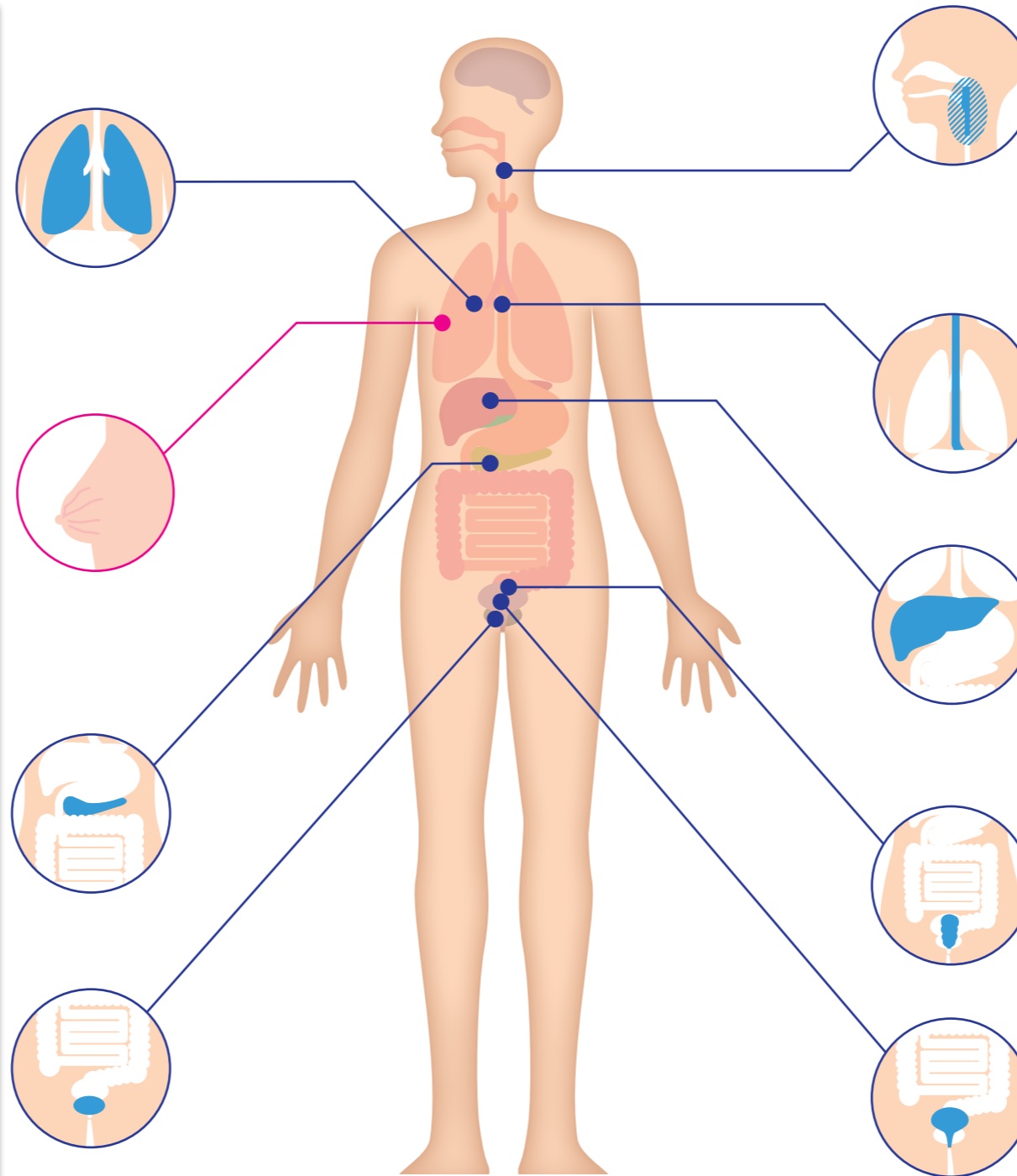
ステージ(病期)別の治療可能性			
低リスク群	中間リスク群	高リスク群	超高リスク群
○	○	○	△

前立腺がんに対する放射線治療(IMRT)は、体にメスを入れないため**男性機能の喪失や、尿道が傷つくことによる尿漏れなどのリスクが手術に比べてほとんどありません。しかも治療効果は手術と同等とされています。**

\*がんが限局している場合のIMRTは保険適用

転移しやすい部位

骨/肺/リンパ節 など



**IMRT(強度変調放射線治療)**:放射線に強弱をつけることで、腫瘍の形が不整形で複雑な場合や、腫瘍の近くに重要臓器が隣接する場合でも腫瘍に放射線を集中照射できる治療法です。

**SBRT(体幹部定位放射線治療)**:3次元的に多方向から放射線を当てることで、正常組織への影響を最小限に抑えながら腫瘍に対して多くの放射線をピンポイントで照射する治療法です。

**頭頸部がん** 治療方法:IMRT ほか

ステージ(病期)別の治療可能性			
I	II	III	IV
○	○	○	△

早期の喉頭がんや中咽頭がん・下咽頭がんに対する放射線治療は、**手術と同等の効果を有し、声を出す機能を温存することが可能**です。上咽頭がんは手術が困難なため、どの病期でも基本的には放射線治療(+化学療法との併用)が優先されます。また、手術ができない進行した頭頸部がんも放射線治療を行います。

転移しやすい部位

肺/骨/肝臓/リンパ節 など

**食道がん** 治療方法:通常照射 ほか

ステージ(病期)別の治療可能性			
I	II	III	IV
○	○	○	△

手術とは違って食道を切除しないため、**治療後も「食べる」機能を維持することができ**、生活の質を落とさずに済みます。

転移しやすい部位

肺/骨/肝臓/リンパ節 など

**肝臓がん(肝転移)・胆管がん** 治療方法:SBRT/IMRT ほか

ステージ(病期)別の治療可能性			
I	II	III	IV
△	△	△	△

一般的に手術やラジオ波焼灼術などが主流ですが、放射線治療の精度向上により、最近では放射線治療も増えつつあります。肝臓にがんが転移すると、通常は抗がん剤治療などが行われますが、当クリニックでは肝転移に対する高精度放射線治療も行っています。

転移しやすい部位

肺/リンパ節/骨 など

**直腸がん** 治療方法:通常照射

ステージ(病期)別の治療可能性			
I	II	III	IV
×	△	△	△

基本的には手術が行われますが、がんが周囲に広がっていたり、リンパ節転移が多数ある場合など、手術の前後に放射線と抗がん剤を組み合わせた化学放射線療法を行うことが多いです。

転移しやすい部位

肝臓/肺/脳/骨 など

**膀胱がん** 治療方法:IMRT ほか

ステージ(病期)別の治療可能性			
I	II	III	IV
○	○	○	△

がんが組織内部まで進行していたり、高齢で手術ができない場合に、抗がん剤と組み合わせた化学放射線療法を行います。**放射線治療では膀胱を温存することが可能**で、当クリニックではIMRTによる放射線治療を行っています。

\*がんが限局している場合のIMRTは保険適用

転移しやすい部位

リンパ節/肝臓/肺/骨/副腎/脳 など

## 他院では治療困難とされるがんにも対応しています。「もう放射線治療ができない」と言われても、一度ご相談ください。

**骨転移の痛み 辛い症状への放射線治療**

治療方法:IMRT ほか

ステージ(病期)別の治療可能性			
I	II	III	IV
-	-	○	○

がんが骨に転移すると、痛みや痺れ、麻痺などの症状が出たり、骨折するリスクが高まります。骨に転移したがんに対して**放射線治療を行うことで、これらの症状を緩和・軽減することが可能**です。中でも椎体や骨盤骨への転移は、神経や重要臓器が隣接するため**IMRTでがんを集中して照射することで、より効果が期待**できます。

その他、がんが原因で呼吸や飲み込みが困難になるケースもありますが、当クリニックでは**症状の元となるがんに放射線治療を行うことで、症状を緩和させ、QOL(生活の質)の向上に努めています。**

**「大きすぎる」「多すぎる」がんへの放射線治療**

治療方法:SBRT/IMRT ほか

ステージ(病期)別の治療可能性			
I	II	III	IV
-	-	○	○

日本では、がんの大きさや数がガイドラインで決められた基準を超えると、通常は**「もう放射線治療はできません」「もう抗がん剤治療しかありません」と言われがち**です。しかしそれは、あくまで保険診療を行うための基準であり、放射線治療による効果が期待できないということではありません。当クリニックでは、米国で研鑽を積んだ放射線治療専門医が、高精度放射線治療の可能性を最大限に追求し、**他院では治療困難とされる「大きすぎるがん」への照射や「複数転移したがん」へのモグラ叩き療法など、可能な限り対応**しています。

**リンパ節転移**

治療方法:IMRT/SBRT ほか

ステージ(病期)別の治療可能性			
I	II	III	IV
-	○	○	○

がんがリンパ節に転移していると、一般的には化学療法が行われます。しかし、転移した**がんの範囲が限局している場合、あるいは少数個転移(目安としては5個までの転移)の場合は、高精度放射線治療が有効**です。当クリニックでは、IMRTやSBRTにより、リンパ節転移に対しても積極的な放射線治療を行っています。